

# ウトナイ湖通信



No.235

2023年12月号



湖の結氷が始まる 12 月。まだ水面が出ている部分があれば、ウトナイ湖周辺で一部が越冬するオオハクチョウが見られることがある。また、あわせてマガモなどのカモ類も観察できる。

ウトナイ湖は、周囲約 9km、面積約 275ha、平均水深約 0.6m の淡水湖です。鳥類はこれまでに約 270 種が確認され、ガン・カモ・ハクチョウなどの渡り鳥にとって重要な中継地、越冬地となっています。

## 12月のイベント情報

### お気軽ガイドウォークinウトナイ湖

12月10日(日) 10:30~11:30

レンジャーや当センターのボランティアが 40 分程、屋外でウトナイ湖の自然を案内するガイドウォークです。荒天時は館内ガイドウォークに変更します。

定員: 10 名程度

対象: どなたでも

(小学生以下保護者同伴)

事前申込: なし

### 初心者歓迎！自然観察で自然保護センターのボランティア体験講座 ～冬の自然情報収集体験～

12月17日(日) 9:30~12:00

内容: 前半は当センターのボランティア活動やウトナイ湖の説明、後半は屋外で自然情報収集調査を体験いただきます。ご希望の方は受講後に当センターボランティアとしてご登録していただけます。

定員: 5 名程度

対象: 高校生以上

申込: 12/1~12/16 まで、  
電話で当センターへ

※当センターのボランティアは本講座を受講した方のみ登録いただけます。



### 年末年始の 休館のお知らせ

2023年

12月29日(金)

～

2024年

1月3日(水)



## 市民ギャラリー 傷病鳥獣救護展



会期: 12月9日(土)～

今年1年間で保護された傷病鳥の一部をパネルで紹介いたします。

またこれに合わせて、クイズラリーも開催いたします。参加賞もあります♪

◆ウトナイ湖野生鳥獣保護センター◆ TEL.0144-58-2231

〒059-1365 苫小牧市植苗 156-26 / 道の駅となり

開館時間: 午前 9 時～午後 5 時 / 入館無料

ウトナイ湖野生鳥獣保護センター

検索

休館日: 毎週月曜日(祝日の場合は翌日)及び年末年始

ラムートくん



～ウトナイ湖～

・国指定鳥獣保護区特別保護地区  
・ラムサール条約湿地  
・東アジア・オーストラリア地域  
・フライウェイ・パートナーシップ



当センターでは、国指定ウトナイ湖鳥獣保護区とその周辺(苫小牧市行政区域内)において人為的な原因で保護された傷病鳥獣の救護・リハビリを行っています。その活動の一端をご紹介します。

## イスカ

### 原因：衝突事故疑い

《メスの個体》



10月21日 市内の道路にて、動けずにいたところを市民が発見し、同日中に保護センターへ搬送。



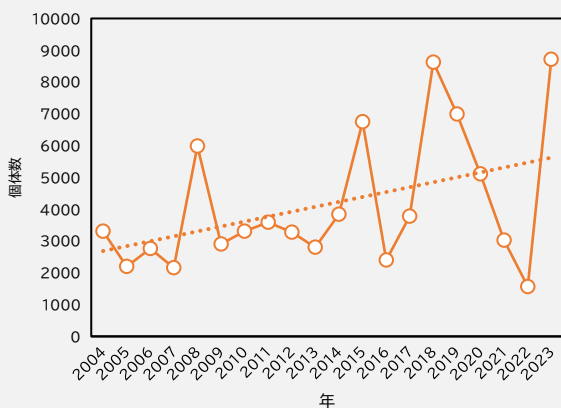
初診では、明らかな外傷は認められなかったが、呼吸は荒く、呼吸器の損傷を疑う。ただちに保温を開始し、安静にて経過観察としたが、動きは緩慢。自発採餌は認めなかった。

10月22日 症状改善することなく、翌日死亡に至る。

### イスカ（スズメ目 アトリ科）

全長17cm。嘴は黒く、先端が交差した特殊な形をしています。オスの成鳥は、全体的に赤い色をしており（赤みの濃淡は個体差あり）、メスの成鳥は、全体的に灰色みを帯びた黄緑色をしています。マツ類の種子や芽を採食しますが、交差した嘴は、松かさの鱗片をこじ開け、中の種子を食べるために進化しました。

## トピックス



### 今秋のガン類カウント調査の結果報告

今秋もウトナイ湖のガン類の個体数カウント調査を行ないました。今季の最大は、10月14日の8,714羽以上でした。上のグラフは、2004年から当センターで行なっている秋の調査の最大記録個体数の経年変化をまとめたものです。この20年間で増加傾向にあることが分かります。



### アイロンビーズでハクチョウを作ろう

ハクチョウ類がウトナイ湖に飛来する10月に標記のイベントを開催しました。参加された11名の皆さんはウトナ湖で見られるオオハクチョウ、コハクチョウ、コブハクチョウ(外来種)の3種から選び制作しました。作る過程で、3種の嘴の違いなどを知っていただくことができました。



## ボランティアコーナー

当センターのイベントや調査活動に積極的に参加され、ご自身でも野鳥観察を楽しまれている柴田さんにインタビューしました

当センターのボランティアに登録しようと思ったきっかけを教えてください。【野鳥を通じて】柴田 陽光 氏

北海道に住んで自宅前に現れる鳥を見たり、鳴き声を聞いて野鳥に興味を持ったことがきっかけです。

当センターのボランティア活動に参加して、良かったことはありますか？

身近な野鳥や植物について学べたり、イベントで同じ興味を持つ人達と驚きを共有できることです。

野鳥や自然観察の楽しさや魅力があれば教えてください。

野鳥やその鳴き声が分かると、森の中や身近な景色をにぎやかに感じられることです。



屋外でウトナイ湖の動植物を記録する柴田氏

## ウトナイ湖 お楽しみコーナー

## 【ウトナイ湖・クイズ】

ウトナイ湖周辺では、10月からイスカがよく見られています。ウトナイ湖での過去の記録を見返してみると、なんと2012年11月以来、約11年ぶりの記録でした。

イスカは、くちばしの先の上下が食い違っているのが特徴なのですが、この嘴がもととなっている「イスカの嘴（はし）」ということわざがあります。さて、この「イスカの嘴」とは、どのような意味でしょうか。次の3つから選んでください。

- A. 口は便利なもので、口先だけならなんとでも言えるということ
- B. 物事が食い違っておもうようにいかないこと
- C. 目上の人や恩義を受けた人などの悪口を言うと、その罰として口の形がゆがむということ

正解は、最後のページにあります。



公式 SNS には、ほかにもたくさん情報を載せています！



Instagram



facebook



Twitter



# ウトナイ湖の レンジャーのおすすめ自然情報



【オオワシ】

全長約 88-102 cm、翼を広げると 220-250cm で、日本には冬鳥として飛来する。翼の一部と尾羽が白く青空によく映える。



【ツグミ】

全長約 24cm。農地や公園などの開けた場所でミズミズ類を採餌するほか、木の実も食べる。地面を動き回る姿が愛らしい。

木々の葉が落ち、小鳥の姿を観察しやすい時期になりました。秋から冬の非繁殖期に、シジュウカラやハシブトガラなどのカラ類は、別の種同士で群れをつくりまします。これを『混群』といい、エナガやコゲラ、キバシリなどが混じることもあります。複数の種が集まることで、天敵に対する警戒の目が多くなる利点があるそうです。一度に複数の種類を観察できるので、なんだか得をした気分になります。

散策される際は、防寒対策をお忘れなく。



【エナガ(亜種シマエナガ)】  
全長約 14cm。一年中見られる留鳥だが、動きが速いため、葉が落ちる冬を見つけやすい。鳴き声は、「ジュリリ」と特徴的。



【マヒワ】

全長約 12cm。冬鳥として渡来する。「チューーン」と鳴きながら、餌を求めて群れで移動する。ハンノキの種子などを食べる。

ウトナイ湖で自然観察を楽しもう♪

最新自然情報や、自然観察路マップはこちらから



Instagram



facebook



X(旧 Twitter)

## 自然観察路ガイドマップ【冬】



**冬のお薦めポイント**  
湖の大部分が結氷します。氷の上にオジロワシやオオワシの姿が見られます。林の中では、留鳥のハシブトガラなどのカラ類やエナガ・キバシリなどの混群が見られます。木々の葉が落ちているので、小鳥たちを観察しやすい季節です。